



## 工事後の土地評価作業を行いました (足柄金時地区大胡田工区)

東部



11月6日、駿東郡小山町においてほ場整備事業（大胡田工区）の換地業務に係る工事後の土地評価作業を行いました。

※工事後の土地評価：現地踏査により、工事後の土地条件を調査し評価を行い、換地評価表の作成や整理を行うこと。

足柄金時地区の5つあるほ場整備の工区のうち3工区は換地処分が済んでおり、やや面積の広い大胡田工区は平成32年度末の換地処分を目指しています。ほ場が点在しているため、多数のブロックに分かれているのが特徴です。

今回は昨年度工事が終わった3つのブロックを、評価委員や小山町、土地改良事業団体連合会とともに1時間半ほどかけて踏査しました。工事が終わったブロックから順次評価を行っていることもあり、評価は順調に進みました。最後に全員で評価結果を確認し、作業は終了しました。

東部農林事務所は、引き続き、地元と小山町、県土連と連携しながら作業を進めていきます。

東部農林事務所用地管理課 055-920-2163

## 従前地の土地評価に先立って試験評価を実施 しました（御殿場市中清水地区）

東部

11月12日、御殿場市中清水地区において、従前地（工事前）の土地評価を行うに先立って試験評価を行いました。

試験評価は、土地評価基準を基に標準地を含め数か所の土地評価を行い、地区の実情に合う様に検討・修正を行うものです。

中清水地区の土地改良区は今年5月に認可されたばかりで、ほとんどの方にとって初めての作業になりますが、試験評価は予行演習でもあるため、本番での作業性向上が期待できます。

当日は、改良区の役員、評価委員や換地委員等13名が出席し、ほ場数か所で試験評価を実施しました。県土連からレクチャーを受けながら踏査や検討が進められ、作業は3時間半ほどかかりましたが活発な議論が展開されました。

東部農林事務所は、引き続き、地元改良区、御殿場市、県土連と連携して事業を推進していきます。



東部農林事務所用地管理課 055-920-2163

## 治山治水対策事業 金沢川流路工1工事が完成しました

# 東部



東部農林事務所御殿場支所は、東富士演習場と下流部の農地・住宅街を土石流等の災害から守ることを目的に、調節池工事や流路工事を実施しています。

その一環として、裾野市須山にある溪流「金沢川」では、流路工109mと床固工2基を整備し、11月中旬に無事完成しました（写真参照）。

金沢川は、まだ上流側約700mが未整備のため、平成31年度以降も引き続き流路工事を進めていく計画です。

東部農林事務所御殿場支所 0550-82-1611

## 「ダウンザホールハンマー工」による施工を実施しました

# 東部

平成30年11月上旬、裾野市須山の農業用水（東富士幹線）管理道の橋梁工事現場において、ダウンザホールハンマー工による施工が行われました。

ダウンザホールハンマー工とは、大型クレーン車に専用の「ダウンザホールハンマー」を取り付け、地盤を連続打撃することにより削孔する技術です。

本工事では、「橋台」を支える基礎部分（基礎杭）に用いられました。

今後は、橋台本体を施工し、橋梁の早期完成を目指します。



東部農林事務所御殿場支所 0550-82-1611

## 東富士演習場内の施工現場で高校生の職業体験 実習が行われました

# 東部



平成30年11月2日、東富士演習場内にある流路工事現場において、受注者主催で沼津工業高校の学生3名を対象とした職業体験実習（インターンシップ）が行われました。

本工事では、現在、護岸工150m、床固工3基を施工しています。

職業体験実習では、バックホウ・ブレーカーなどの重機の操作方法の見学や、トータルステーションを使った丁張りの設置等の作業体験が行われました。

学生からは、「重機の操作方法がこんなに複雑だとは思わなかった」、「丁張りの役割が理解できた」等の感想が挙がりました。

東部農林事務所御殿場支所 0550-82-1611

## 大淵地区基盤整備事業・中間管理事業説明会 を開催

# 富士

富士市役所農政課と富士農林事務所は11月21日、大淵地区の認定農業者を対象に「基盤整備事業と中間管理事業説明会」を開催しました。

大淵地区は、富士市の茶所として、その美しい景観で高い知名度を誇ります。一方、傾斜地などの営農に不利な地域においては農地の荒廃化が懸念されています。

そのような中、富士市は地元負担金のない農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、この地域の農地を優良農地として残していくことを考えています。

今回は、認定農業者に声をかけ、情報を共有するとともに事業の可能性を探りました。

富士農林事務所の農村整備課と生産振興課は、富士市とともに連携して事業を推進していきます。



富士農林事務所農村整備課 0545-65-2201  
生産振興課 0545-65-2194



## 大倉川農地防災ダムにバスツアーがやってきました

# 富士



11月27日、富士宮市主催の「秋の施設巡り 生活に大切なことコース」が開催され、26名の富士宮市民の方が大倉川農地防災ダムを訪れました。

富士農林事務所の職員が当ダムの役割や仕組み、管理状況、配備体制について説明したのち、ダム管理所内の監視施設、放流バルブのある豎坑などを見学しました。

参加者からは、「バルブの仕組みについて」や、「ダム堤体にどれくらいの水が染み込むのか」などの質問が寄せられました。

富士農林事務所は、今後も大倉川農地防災ダムの重要性について周知するとともに、適正な管理に努めていきます。

富士農林事務所農村整備課 0545-65-2201

## 農林水産省幹部がミカン園地の基盤整備優良事例を視察

# 西部

農林水産省農村振興局の幹部が11月1日、機械化が進みにくい傾斜地の樹園地における基盤整備手法を検討するため、優良事例視察として浜松市北区三ヶ日地区を訪れました。

現地調査に先立って行われたJAみっかび幹部らとの意見交換会では、「今後のミカン経営において、スピードスプレーヤ（SS）等の機械の導入が必須であるが、三ヶ日地区でさえ6割の園地が基盤整備未実施であり、機械化が進んでいない」という説明がありました。

現地調査では、自ら10haの団地化を先駆的に実施した後藤組合長の園地において、機械化の推進による規模拡大の重要性について紹介されました。

三ヶ日地区では、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用した基盤整備の要望が高まっていますが、土地改良事業の制度設計が必ずしも樹園地に適しているとは言えません。今回の視察を契機に、地域の実情に合った制度の見直しが図られることを期待しています。



西部農林事務所農村整備課 053-458-7224

## 三ヶ日みかんの産地4か所で基盤整備の制度 説明会を開催

西部



11月1日から8日にかけて4回にわたり、浜松市三ヶ日地区において、農地中間管理機構関連農地整備事業の説明会を開催し、延べ約150名のミカン農家が参加しました。

三ヶ日地区は、国内有数のミカン産地として優良経営を実践しており、若手や後継者も順調に育っていますが、機械化困難な条件不利園地や農地の分散により、効率の悪い営農がまだに行われています。

このため、西部農林事務所は、JAみっかびと浜名湖北部用水土地改良区と協力し、地域農業の今後の展開を話し合うきっかけとするため当説明会を開催しました。

説明会では、「農地の貸借ではなく売買を促してほしい」など様々な要望が上げられました。農地流動化や基盤整備に対する期待は高く、今後はJAが中心となって各農家の要望書を取りまとめる予定です。

県、JA、改良区は、三ヶ日みかんブランドを強固にするため、地域農業を支える取組を一丸となって推進していきます。

西部農林事務所農村整備課 053-458-7224

## 農業用管水路の市道横断箇所を「推進工法」で 施工中

西部

浜松市北区細江町中川で実施している経営体育成基盤整備事業中川地区では、現在、151haの水田に農業用水を安定的に供給することなどを目的として、揚水機場や農業用管水路等の農業水利施設を建設しています。

農業用管水路は、ほとんどの区間を開削工法で布設していますが、国道や交通量の多い市道の横断箇所については、交通への影響が大きいことなどから道路開削を行わず、管理設部を地中で掘削して管本体を押し込んでいく「推進工法」を採用しています。

当地区は、平成30年度中に全ての管水路を完成させる計画であり、来春には、全受益地において安定した供給が可能となります。



西部農林事務所湖北事業課 053-458-7230

## 西部

## 倉松排水機場の更新整備を実施しています



西部農林事務所は、浜松市南区倉松町にある倉松排水機場の修繕工事を実施しています。

倉松排水機場は昭和55年に設置された施設で、排水ポンプにより、周辺農地等112haの湛水被害の軽減に寄与しています。しかし、経年劣化による排水能力の低下や潮風による錆が顕著となっており、大規模な更新が必要となっていました。

また、原動機のディーゼルエンジンについては、交換部品の製造が終了しているため、故障した際の補修が困難な状況になっていました。

このため、平成30年度から平成31年度末にかけて、排水ポンプの分解整備と原動機の更新工事を実施しています。

工事は非出水期（11月～翌4月）に可能な限り実施するとともに、少なくとも1台のポンプが運転できるように工程を組んで実施しています。

西部農林事務所農地整備課 053-458-7227

## 県庁

## 第22回 農地技術研究発表会を開催しました

男女共同参画センター「あざれあ」において11月7日、建設コンサルタント等の関係団体、市町及び県職員、計177名の参加を得て、第22回農地技術研究発表会を開催しました。

本発表会は、農業農村整備事業に携わる職員の技術力向上と円滑な事業推進を目的とし、今年度は「課題克服事例に学ぶ」をテーマに開催しました。

農林事務所の代表者6人による研究発表のほか、森林・林業技術研究発表会及び交通基盤部技術発表会の優秀発表者による交流発表、水利用課職員による事業報告等を行いました。

各発表者は丁寧かつ分かり易い説明を行い、発表に興味深く聴き入っていた参加者からは多くの意見や質問がありました。厳正なる審査を経て以下のとおり最優秀賞と優秀賞が選出されました。

今後も、農地局は、職員の農業振興技術者としての技術力向上に取り組んでいきます。

農地局農地整備課 054-221-2589



## 最優秀賞

「県営三方原用水のクローズド化による高度な水利用の実現」

西部農林事務所 技師 池谷 龍一

## 優秀賞

「農業用ため池の耐震対策と事業推進上の課題」

中遠農林事務所 技師 鈴木 勇人